

report
今泉晃一
photo
西原樹里

3年1組 & 田中安茂教諭

クラス合唱II 人間関係の合唱

千葉県
市川市立
第五中学校

学校長 亀井正則
全校生徒数 672名

授業の始まりは体も心もほぐれるウォーミングアップから

先生に指名された生徒が指揮台の上で発声し、みんなをリードする。みんなは発表した生徒を拍手でたたえる



新・中
いつ

B5判・5
ISBN978
新・中
光の

B5判・7
ISBN978
新・中
MI
一葉が

B5判・7
ISBN978
新・中
地
一笑詠

B5判・7
ISBN978
新・中
光

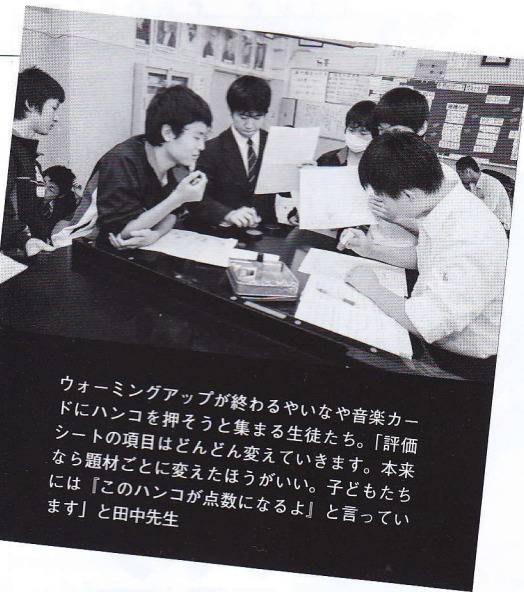
B5判・7
ISBN978
新・中
輝

B5判・7
ISBN978
新・中
あ
一旅二

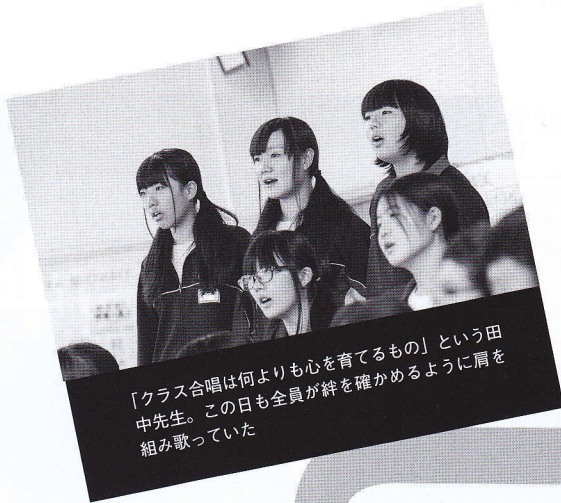
B5判・7
ISBN978
新・中
大

B5判・7
ISBN978
新・中
地

B5判・7
ISBN978
音

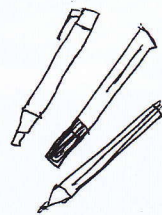


ウォーミングアップが終わるやいなや音楽カードにハンコを押そうと集まる生徒たち。「評価シートの項目はどんどん変えていきます。本来なら題材ごとに変えたほうがいい。子どもたちには「このハンコが点数になるよ」と言っています」と田中先生



「クラス合唱は何よりも心を育てるもの」という田中先生。この日も全員が絆を確かめるように肩を組み歌っていた

田



中安茂先生が担任でもある3年1組のこの日の音楽の授業は、数日後の合唱祭に向けてのクラス合唱だった。授業が始まるとまずピアノに合わせてドミソでハモリ、そのまま「IV↓V↓V↓のハーモニーで「こんにちは」と歌う。そして「1、2、3、4」と声を合わせながら、発声と準備運動を兼ねた肩たたき。終わると先生が「大中小？」と問いかけ、生徒たちが思い思いに「大」「中」などと叫ぶ。これは、自分たちで大きな声が出ていたかどうかの評価だそう。

続いて「バイバイバイ」で発声。最初は先生のお手本に続いて声を出す、その後先生が出席番号をランダムに指名。当たった生徒は前に出て先生の代わりにリードする。終わると拍手。「一人でよい声で歌うという

ことよりも、その子のことをみんなが受け入れること、それによって仲間意識を高めることが狙いです」と田中先生。校歌斉唱。先生は前奏が終わったところで弾くのをやめ、歌っている生徒たちの近くにいて一人ひとりの声を聴いたり、お手本を聴かせたり、身振り「もつともつ」と指示したり。正直に言ってしまえば、クラス全体としては発声も音程もよいというわけではない。しかし、みんなお腹から存分に声を出しているし、そのことを楽しんでい

これぞ五中伝統の「肩を組んで歌う」光景



ウォーミングアップの
ドにハンコを押そうと
シートの項目はほとんど
なら題材ごとに変えた
には「このハンコが点
ます」と田中先生



て声を出す、その後先生が
出席番号をランダムに指名。当
たった生徒は前に出て先生の代
わりにリードする。終わると拍
手。「一人でよい声で歌うとい

なり、近くの友だちとさざけ出
す男子もいる。でも、いざ声を
出すときには「全員参加」の意
思を感じられる。女子はもちろ
んのこと、特に男子が元気な声

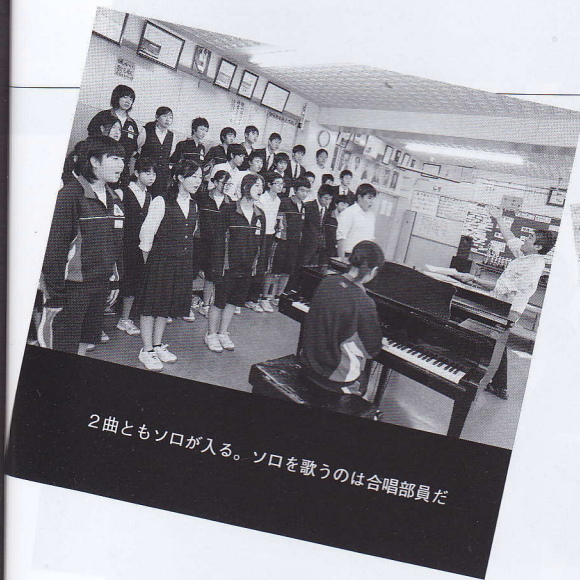
五中へ赴任したとき「最初は
歌にならない、授業にならない
状態」だったという。そこで、
まず肩を組んで歌わせた。「そ
れによって「合唱」というのは連

帯意識をもつてやるものだ」ということに気づき始めたんです。だから今は、合唱コンクールでも卒業式でも、五中では気持ちをこめて歌うときにはみんな肩を組みますよ。」

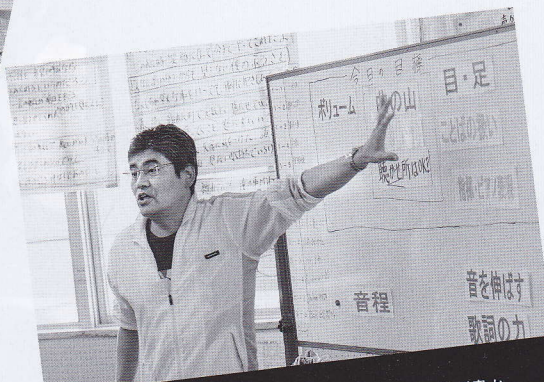
クラスの仲のよさを音楽が結びつけている

ますので、子どもたち同士で選ばれるようにしています。ソロを歌う子はクラスの中でも正當に評価され、茶化されるようなことはありません」とも。

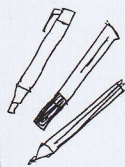
3年1組が合唱祭で歌うのは横原敬之の『遠く遠く』とFUNKY MONKEY BABYSの『あとひとつ』。この日の練習でも全員が肩を組み、リズムに合わせて体を動かしながら歌った。もちろん指揮も生徒だが、どこかぎこちない。話を聞くと、「指揮をした二人の男子は、やんちゃで元気な子です。でもこの合唱祭でがんばり始めた。本人が指揮をやりたいと言いついて、クラスの仲間もそれを受け入れました。今彼らが一番、合唱のよさを感じていると思いますよ。だからこのクラスの合唱が、私は好きなんです」。田中先生はこの後のインタビューでも「このクラスの合唱が好き」と、折に触れて繰り返したのだった。



2曲ともソロが入る。ソロを歌うのは合唱部員だ



生徒たちの歌声を聴いて、先生はキーワードが書かれたカードを選び、生徒たちに今日の目標を示す



「合唱部が今年は今日本合唱コンクールで関東大会止まりでしたから、1か月の間クラス合唱について考える余裕ができませんでした（ちなみに昨年は合唱部創部3年目にして、同大会で全国出場を果たしている）。そうしたら別のものが見えてきたのです。たとえば2年生くらいだとクラスの中で浮いてしまっているからこそ、歌うときに周りや肩を組めないという子がいるんです。でもそういう子たちも本当は歌いたい。他の子たちもその子たちのことをすごく気にしていて、互いに絆を求め合っている。それが3年生になると、すべてを承知したうえで全員肩を組むことができるようになります。だからこそ、この合唱には一人欠けてもだめなんですよ。」

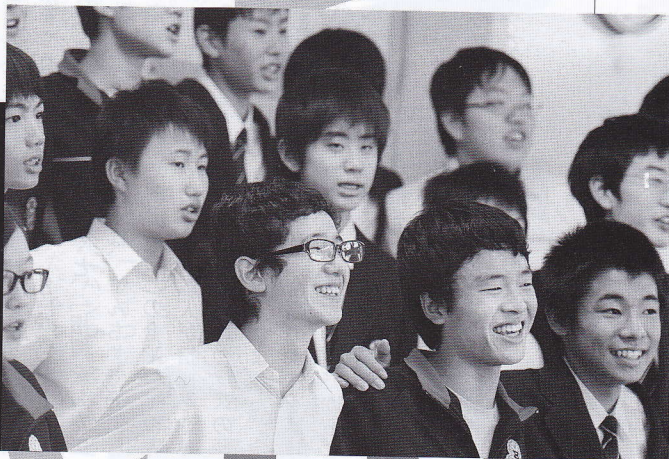
「本当に仲がよいですからね。その仲のよさを、音楽が結びつけているんです。今日は休みの子がいきましたから、いつもと雰囲気少し違っていったと思います。全員がそろい、音楽的にのってきて、表現を工夫して「曲がこんなに変わるんだ！」と

おもしろく感じた瞬間に、あの子たちはすごくよい笑顔になるんです」と先生は言うが、これは担任として普段から生徒たちを見ていくからこそいえること。

取材班の目には、この日も心から合唱を楽しんで歌っているように映った。

田中先生は、みんなが歌っているときには腕組みをして深く聴き入っているが、クレシエンドのところでは立ち上がり全体でそれを表現し、よいと思ったときは手でOKサインを出して見せた。気づいたことがあるとホワイトボードの「今日の目標」と書いてある下に、「曲の山」「強弱（大・小）」「言葉の扱い」「フレーズ」などと書かれたカードを貼っていく。

1曲歌い終えてから、それについて指導。しかしあまり細かいところまで突っ込んだり、ある部分を何度か繰り返し練習するようなことはしなかった。「曲の山はどこかな？」と問い



先生のエネルギッシュな指揮と言葉がけでどんどん歌に表情がついていく

合唱祭を「いずれは文化会館でやりたい」と先生は言うが、それに少しでも近づきたいということで、音楽室には電子的な音響をつくり出す装置が設置されている。これによって音楽室にホールのような残響をもたせることも可能になっているのだ。生徒たちも、この部屋に来ると気持ちよく歌えるということがわかってはいるはずだ



2曲ともソロが入る。ソロ

【セミナー information】

田中安茂教諭と生徒たちが公開授業を行います！

第31回中学校公開授業研究会

日時：3月14日（土）10時25分～16時30分（受付開始10時）

会場：音楽の友ホール（東京都新宿区神楽坂）

内容：公開授業、ミニ・コンサート、合唱指導レベルアップ講座、新曲指導ほか
詳細は、本誌1・2月号綴じ込みの申込書をご覧ください。

人間関係の合唱

「私が黙って座り、みんなの顔を見ながら真剣に聴いてあげると、子どもたちも真剣に歌い始めるんです。その歌はすごくよい。逆に細かな指導をすればするほど空回りしてしまう。ここが合唱部と違うところだと思

「すごくいいんだけど、先生今日は泣いてないだろう。それはみんなが集中できていないからだよ。本番はできると信じているけれど、でも本番うまくいけばいいという話じゃないんだ。あと何回かしかこの歌を歌えないんだからね」。最後に先生はこう言って授業を終えたのだった。

かけ、「君たち、あとは強弱をつければ絶対に上手！」と言ってもう一度、今度は先生の指揮で歌う。そのダイナミックな指揮に、生徒たちがどんだん、と晴らしい「音楽表現力+5」「指揮者、ピアノ+1」と評価。指名された生徒がハンコを押しに集まった。

「曲の山はどこかな？」と聞いてきて、表現を工夫して「曲がこんなに変わるんだ！」と

「曲の山はどこかな？」と聞いてきて、表現を工夫して「曲がこんなに変わるんだ！」と

「曲の山はどこかな？」と聞いてきて、表現を工夫して「曲がこんなに変わるんだ！」と

「曲の山はどこかな？」と聞いてきて、表現を工夫して「曲がこんなに変わるんだ！」と

「曲の山はどこかな？」と聞いてきて、表現を工夫して「曲がこんなに変わるんだ！」と

teacher

●聞かせて！先生の思い●



田中安茂教諭

それまで学年ごとだった合唱祭を全校で行うようにしてから今年で3年目。合唱祭前には清掃後の30分を練習にあてるが、その時間内に他の学年の他のクラスとの交換会——いわば練習試合をするという。そして自分のことは棚に上げて意見を言い合う。「1年生は3年生の男子の声にびっくりします。そして合唱祭が終わると、1年生が3年生の歌に感動して、『ああなりたい』と思うようになります。そうすると、また学校の雰囲気が変わりますね」と田中先生は言う

